

僕がケアマネを取ったワケ

一急性期医師が考える介護との連携とまちづくり 連載 番外編「2119年ピクニック」



札幌里塚病院
内科科長

松永 隆裕氏

新春号なので通常の連載とは違う、僕の妄想ストーリーにお付き合いください。もちろん、すべてフィクションです。

「おいしいちゃん、元旦からピクニックなんてワクワクする～」

2119年元旦、晴れ。

今日は、孫のたかひろと小一時間で行けるアートヴィレッジにピクニック。

青い空と白銀の世界が気持ちいい場所だ。

We can fly! To the sky!

「さてと、車で行こうか～」

昔のように自動車は持つ時代ではなく、シーンに応じて使い分ける時代。今日の気分は、わんぱくな孫、たかひろとの外出だから、スポーツカーにしよう!

「お～い、gaagle。マコダのオープンカー1台お願い!」

ホームスピーカーへ話しかけると車が配車される。車はもちろん自動運転だが、マニュアルモードに変えれば自分でも運転できる。

昔からある車用蓄電池とその後にガソリンエンジンから変わって中心となった水素エンジンで動く。通常は電気で動き、マイクロ波で宇宙太陽光発電所から送られる電気で充電。昔のように「走る喜び」を感じたいときには、マニュアルモードにして水素レシプロエンジンをぶん回して、ワインディングロードをかつ飛ぶ。

電力は、世界的には宇宙太陽光発電をベースに、地上太陽光発電、水力発電、風力発電、地熱発電、波力発電など地域に合った発電を行い分散管理されている。常温核融合技術が確立すれば、宇宙太陽光発電のような大掛かりな設備がいらなくなるんだけどな～。

昔は化石燃料を燃やしたり、原子力を使ったりと、やばかったよな～。持続可能性社会のための

世界的な取り組みと技術の進歩の結果、地球環境はガラリと改善したと、しみじみ思う。

マコダのオープンカーが到着。本当に美しい車だ。100年以上前からあるが、相変わらず熟練した生身の人間の手によるデザインはすばらしい。人間の感性に合っている。高度AI化された現代においても、CAD(コンピューター)で設計された車は、どうも感覚的にしっくりこないデザインになる。

「アートヴィレッジのあの大好きな松の木在所まで行って!」

シンギュラリティ(技術的特異点、すなわちAIが人間を超える)をとくに過ぎた現代、ホームスピーカー、スマホ、ウェアラブルウォッチ、自動車、家電製品などありとあらゆるデバイスは個人IDで管理され、個人のその時の環境に応じて全てシームレスに連動する。私のことはすべてAIが知っている。音声や仕草などのほか、さまざまな方法でどんなデバイスにも指示を出せる。

「おやつ買ってく～」

たかひろは食いしん坊。近くのスーパーに立ち寄る。

「利尻昆布塩ポテトチップス、平取ベリー、それと、ドミニカチョコレートがいい! あと、ファミタグレープ!」

ポテトチップスやチョコレート、ジュースには、いろいろな種類がある。昔みたいに、メーカーの違いではなく、「誰が」「どこで」「どのように」作ったかの違いが重要だ。大量生産大量消費メーカーが作ったファミタグレープは「円」で買う。北海道産の丹精込めて作ったじゃがいもと利尻昆布塩を使って手作りのポテトチップス、同様に生産された北海道平取ベリーは、「ピリカ」でなければ買えない。そして、ドミニカ共和国のカカオを用いて、ジ

ンバブエサトウキビから作られた砂糖で作られた手作りチョコレートは、「プルクラ」でなければ買えない。「ピリカ」は北海道の発展に寄与するための仕事で得られる通貨、「プルクラ」は、持続可能性社会のための仕事で得られる通貨だ。

「おいしいちゃん買って～」

自分のお年玉を使わないで、おねだりするたかひろ。

私が持つ仮想通貨ウォレットの割合は、大体「円」が10%、「ピリカ」が30%、「プルクラ」が20%、残りは7通貨で構成。ファミタグレープは「円」、ポテチとベリーは「ピリカ」、チョコは「プルクラ」で決済した。

国家管理通貨である「円」は、相変わらず必要な通貨だが、今や魅力的な通貨ではない。ほぼ定型的な業務を行う大企業・役所など大きな組織で働く人が主に持つ通貨。大量生産大量消費目的に作られた商品やサービスしか買えない場合が多いからだ。

個性と能力を生かして仕事をする人たちによる取引は、多様に展開する仮想通貨・仮想地域通貨の中から、好みに合わせて選んで行う時代だ。

その人の仕事内容や信条などは、持っている通貨と割合で、ある程度判断できる時代となった。私の場合、「円」は勤め先の企業での定型的な生産・技術仕事での収入、「ピリカ」は北海道の持続可能性社会に必要な知恵や暗黙知を伝える仕事での収入、そして「プルクラ」は、困っている人を助ける活動による収入だ。

昔、私の祖父、隆裕おじいさんに聞いた話では、「プルクラ」に相当する仕事では収入が得られず、「地域包括ケア」という制度の時代には、「ボランティアポイント」とか言う日常生活の購買活動で全く使えないポイントだったようだ。今考えると、
(10面に続く)

(11面からの続き)

まるで子供だましのよう制度だ。

昔はすべての商品・価値が「円」で決済されていたとのこと。日本で使える通貨は、単一ベクトルの価値しか持たない「円」で成り立っていた。すなわち、価値のあることをして得る収入も、悪いことをして得る収入も「円」。「円」を持っている「量」で「お金持ち」とか言ったそうだが、そういう評価しかない時代だったようだ。多様化した価値を多様な通貨で表現する現代では信じられない。

どんなベクトルを通してどんな価値を生み出したかで、自ら通貨を選んで、それによって物やサービスを交換したり、人との関係性を構築したりすることが当たり前となった今では、「質的な価値」が通貨に反映されなかった、すなわち、多様なベクトルの価値を評価する通貨の無い、1つの価値で評価される管理通貨制度「円」時代の恐ろしさを感じる。

「さて目的地に向けて出発〜」

自動運転なので、あの大好きな松の木の手まで一直線。そして、私の好みの道を勝手に走ってくれる。オープンカーの暖房調整も、たかひろと私の好みに合わせて自動調節してくれるので快適なもの。頭寒足熱が気持ちいい。やっぱりオープンカーは、冬の乗り物〜！ ちなみに、私の子どもは、隆裕おじいさんと同じ名前を孫に付けた。ひらがなだけ。

「おじいちゃん、今日は昔話聞かせてくれるって約束だったよね〜」

そう、到着までの小一時間は、孫に100年前、2019年の話をする約束をしていた。私自身も、私の祖父である隆裕おじいさんから聞いた話で、実際見たことのない時代の話だ。

美しい景色を眺めながら、フロントガラススクリーンに映し出した、隆裕おじいさんが2018年頃に使ったプレゼン資料や、2019年の介護新聞に掲載していた記事を見ながら昔話を始めた。

一昔は、どんな仕事をしてでも得られる収入は「円」しかなかった。だから、隆裕おじいさんは医者だったんだけど、よく言った。やぶ医者のお患者さんは何回も病院に通う。名医は、すぐに治す。どっちがたくさんの収入があると思う？ 答えは、やぶ医者。何回も通うと、その都度医療費が支払われる制度だったんだって。おかしい時代でし

よ？ そして、介護では「円」をそんなに得ることができなかったのも、どんなに心を込めたい仕事をして、その評価が収入に反映されない。これが、「価値」を表現する通貨が「円」しかなかった古い時代。現代のように「たくさんの質的な価値」を反映する通貨がなかったんだ。今なら人間として価値ある仕事をしていたら、例えば介護の仕事では普通に「プルクラ」がもらえるでしょ？

隆裕おじいさんは、このスライドや介護新聞に書いたような、今では当たり前「人間中心」の社会システムを支えている「複雑適応系」と「自律分散」という概念の必要性を、そして人間が「自由」で「幸せ」であるためには、どのように社会設計をす



れば良いかを、自分の仕事を通してだけではなく経済学者を中心とした人たちとも協力していろいろ考えて広めたいと思って100年前に活動し始めたんだって。

今のような多様な価値を持った仮想通貨・仮想通貨地域通貨が流通することで、自由な個人の価値観による繋がりが、自然と助け合いになる、人に優しい世の中になったんだよ。

だいぶ昔にAIは人間を超えた。だからこそ、膨大な知識と情報のアルゴリズム化などAIが得意な機械学習はAIに任せて、その呪縛から自由になった人間が生命体としての人間で居られる、このようなシステムが大切なんだー

「たかひろは、彫刻家になりたいんだっただよな」

ーアートヴィレッジには、たくさんの作品があるから、いろいろ見てみるといい。生命体である人間でしかできない繊細で、知恵や暗黙知が生かされる仕事じゃないと、豊かな環境で生きていけないからな。

昔の「豊かさ」は、「たくさんお金がある」「物を持っている」が常識みたいだったけど、今の「豊かさ」はお前も知っている通り、「自分を表現する」とか、「共感が得られる」とか、「自分が幸せで人をも幸せにする」とかが大切な時代。

だから、お前が彫刻家になることは大賛成なんだ。

彫刻作品は「匠」で買いたい人がたくさんいる。「匠」は芸術系で好んで使われる通貨。これは「円」と交換できないけど、おじいちゃんが好きな通貨「ピリカ」や、「プルクラ」と互換性がある。これらの通貨や、通貨を通じた関係性を活かして生きていけば、本当に豊かな人生が送れると思うよー

「よかった〜。じゃあ、大好きな彫刻についての知識や方法はAIに教えてもらったから、今日は作品をよく見て、作家職人さんから実際のやり方を教わろうっと！」

たかひろとの会話を楽しんでいるうちに、目的地のあの大好きな松の木についた。新雪白銀の世界が眩しい。次第に高く昇っていく太陽もポカポカ暖かい。そこで…

「たかひろ〜、アートヴィレッジに行く前に、あの木に登って青い空に向かって飛ぼう！」

「いいよ！でも、おじいちゃんはいつまでたっても子どももみただね〜。雪の中に飛び込むんでしょ」

「ハハハ、やんちゃで自由、妄想好きな隆裕おじいさんからの遺伝子を引き継いでいるからな」

100年後のたかひろくんは、2019年の介護新聞連載記事で何を見たのでしょうか？ 2019年6月7日から9日まで開催される北大祭の中で、僕たちが開設する予定のいくつかの模擬店を中心として、この未来と仮想通貨技術が体験できるかも!? 乞うご期待！